

タイ边境の地 バーンクンメートウンノーイ校 アンパイ・マニワーン校長講演会 報告

平成30年3月23日（金）日 ご支援いただいている（株）内田洋行様からセミナー会場<ユビキタス協創広場 CANVAS>をお借りして講演会を開催し簡単にその報告をします。主催：NPO JTASH, 共同開催として 環太平洋アジア交流協会、創りの会の支援を賜り準備を進めてまいりました。

今までNPO JTASHはこの8年間でタイチェンマイ県の孤児養護施設、身体障害者施設、そしてオムコイ村トンティン小学校へ命の水プロジェクトとして井戸を掘り小学校と村人への命の水を提供し、またその奥地のバーンクンメー小学校へWプロジェクトとして図書館と医療施設を建設し寄附をして参りました。



小学校への道は雨期には難路で行く手を阻まれ目的地にたどり着くこともままならないほどの僻地にカレン族を中心とした小学校があり、我々は日本の企業、皆様のご支援で活動をして参りました。

今回はその小学校の校長先生が、日本のご支援頂いている皆様にぜひ御礼を言いたいと共に学校活動の報告の機会を持ちたいという志で今回の講演会の企画をたてました。



今回の講演会のプログラムとして校長先生の活動報告以外に支援者の皆さまからご支援のご挨拶をいただきました。まずはその方々のご挨拶を簡単にまとめました。

駐日タイ王国大使館からはサリニー・ポーンプライパイ公使参事官他3名の方々をお迎えし、昨今のタイと日本の友好関係の感謝のお言葉をいただきました。

現在タイにはバンコクとチェンマイ他で1万人以上にのぼり、その豊富な経験を生かしてタイのイノベーション、あらゆる方面の技術面の向上に貢献されていることは大変喜ばしいことです。

次に在チェンマイ総領事館 前総領事藤井昭彦氏にタイ王国のご紹介とチェンマイの諸事情についてお話を頂きました。

現在タイへの日系進出企業は1700数社、在留邦人は6万4千数百人。北部工業地帯では4万人以上の現地タイ人を雇用しタイの経済発展に寄与しています。昨年で日本とタイの国交成立130年に達し日本の皇室とも大変親密な関係を持っています。

チェンマイはタイでも有数の観光地で地域内総生産の7割が観光を占め、また日本からのロングステイヤーは4千人以上で多くは高齢者が温暖な気候風土と仏教国である温和な微笑みの国の人柄をもとめてやっています。

こうしてロングステイヤーの皆様がタイ王国に住まわせて頂いているわけですが、その感謝の気持ちを、ボランティア活動を通じて辺境の子供たちへ恩返しをすることは大変感慨深いものがあります。

次に現地でロングステイヤーの皆さまのサポートと我々のボランティア活動の礎となってお手伝いをいただいているグリーンライフ代表の市毛みどりさんからのメッセージをまとめました。

彼女が家族とタイに移り住んで30年、その暮らしの進化が顕著に表しているのが日本食の進出の多さであるということ。また日本とあまりにも対照的な違いを表しているのが命の尊さ。交通事故で人が倒れていても車を止めて助けようとする人はほとんどいない、それは第一発見者として事故の加害者にされてしまう、面倒に巻き込まれるのが嫌だと云う事が理由らしい。

救急車で病院に運ばれても支払いの目途が立たなければ病院、医者たちは治療をしない、高額治療となる手術をしなければ助からないといった状況でも支払の保証がない限り手術がされないというのが通例らしい。

タイ語でマイペンライ、英語ではネバーマインド、日本語ではまあ何とかなるさって意味ですが、事故をおこしてもマイペンライですましてしまう国民性、謝ることもありがたいもない、ただマイペンライで片付けてしまう便利な言葉である。車をこすられても、擦っても、約束を忘れて時間に遅れても、マイペンライで片付けられる。そこで怒れば、この人はなんと心の狭い小さな人だと逆にそう思われてしまう国民性である。

最近の問題点としてロングステイヤーの高齢化による問題が顕著に増大している。

彼等がロングステイのブームに乗ってやってきたのが10年から15年前、その人達は今は70才を越え高齢者となれば90才にもなっています。そこで起こる問題は貯金の使い

果たしと円でもらう年金が円安に伴いタイバーツ収入の減による生活苦、また時には女性に騙されて財産を使い果たす人、病気や事故で高額医療費が支払えなく、ロングステイヴィザ申請時に必要な80万バーツも手を付けて、ロングステイが出来なくなる人達が多くなってきた。

明日何かが起これば病院にかかるお金さえも、また日本に帰るお金さえも無くなってしまった人達。そんな人たちが密かに身を潜めて暮らしている高齢者が現実が増えていく。

病院に運ばれて領事館に連絡が入りはじめて在住していたことが明らかになる人も最近ときどき見受けられる。いわゆるオーバーステイ者、ヴィザなし居住者である。

ロングステイに意気揚々と移住してきた当時は、

誰もが自分がロングステイを始めるときに病気になるとは考えなかったでしょう

誰もが自分がなにかの手違いでお金がなくなってしまうことが考えなかったでしょう

誰もが自分が寝たきりでなり介護が必要になる状態になることは考えなかったでしょう

誰もが自分が遺体安置所に置かれたままになるとは考えなかったでしょう

誰もが亡くなった後、家族に迷惑をかけることになることは考えなかったでしょう

そんなとき自分がどうすればいいのかをキチンと考えておかねばならないのだが、そんな人は残念ながら少ないのです。

日本の家族と連絡取れば・・・家族との交流を絶たれて見放されてだれも助けてもらえない人もいます。

2016年から市毛氏が始めた仕事は、それはチェンマイから始まり、周辺の地域まで広がり、そういった引き取り手のいない高齢者の死に直面し、遺体安置所に遺体を家族の代りに引き取りに行き火葬の手伝いをする依頼の仕事も増えてきています。

何しろロングステイヤーの大半は高齢者なので、もしもの時のことを考えて決して他人に迷惑をかけない事だけは考えてロングステイ生活を楽しんでもらいたいものです。

アンパイ先生との拘わりは三原氏がトンティン小学校に井戸を掘ったきっかけです。この小学校は乾期には雨期に溜めていた水がなくなり共同水ためは不衛生で病人が続出するありさまでした。井戸を掘る掘削機がこの村に入るのは奇跡的なことで、またこの地域で地下水を汲み上げるのも前代未聞のことで果たして地下水があるかどうかはわからず業者を説得して工事に踏み切りました。第一回目の業者はギブアップ宣言をし、次の業者捜しをし、なんと100数メートル掘ったところで水脈にあたり、今では小学校と村人の貴重な水となっています。



アンパイ先生を知った気切っ掛けは、命の水のプロジェクトを手伝って頂いた写真の僧侶からバーンクンメー小学校を紹介を受け校長先生を知ることになったわけですが、そこは何と人里離れ道路も雨期は泥沼で到底車が通れる道ではなくなってしまふ僻地に存在しています。

最初に訪れたときは途中で自動車が動けなくなり、車を放置して手荷物だけ持って泥濘の山道を数時間歩き続けて疲れ果てたところに、学校側に連絡をとり途中まで迎えに来てもらった次第です。もちろん日本人がこの学校を訪れたのは我々が最初でそれも平均年齢が65才の高齢者たち。

我々が訪問するたびに持っていった食糧・食材で子供たちにカレーライス、スパゲティ、クリームシチュウなど炊き出しをして食べてもらいました。



毎回訪問時には日本から御菓子・食料をハンドキャリーで持ち込み、またチェンマイで買った食糧などを買って持ち込み寄付をしました。その他日本の企業団体から寄付をいただき、子供の教育用品や哺乳瓶などを沢山寄付をいただきすべてハンドキャリーにて持ち込んで寄付をしてきました。

施設を建設して寄付することにして、プロジェクト発足してからようやく2年かりで完成にこぎつけました。

ここの村人の親たちは教育よりも生きることが最優先で、つまり食べることを先させるので、子供が学校で教育を受けることなどは考えに及ばず、教育が長目で村の発展につながることを校長は村々を説得に歩いて回り今の120名い生徒の学校まで育て上げたわけです。

アンパイ校長の前校長は半年でノイローゼになり見捨てて立ち去ってしまったということです。アンパイ校長は自らの給料をも学校費用に充て、教育委員会などに働きかけて10年、ようやく今の小学校の容となりました。



この小学校へは先生方の要望で図書館と医療

プ
が

る
優
け
い

近

市毛みどりさんは4年前に乳がんを煩い手術をして経過観察中にもかかわらずこういったボランティア支援活動を日本とタイの友好の懸け橋の役目を続けられています。

アンパイ校長先生の講話と今後の活動については次号に掲載いたします。

寄付金収支報告

収入 クラウドファンディング・講演会寄付金

合計 689,549

支出

旅費交通費（チェンマイー東京 3名）宿泊費・消耗品

425,898

寄付金の振込先

寄附目的：オムコイ バーンクンメー小学校支援寄附金

振り込み口座：みずほ銀行 神田支店 108 普通口座 1459493

口座名義：バーンクンメートウンノーイ校を支援する会